# 倫理、同意、守秘義務、医事法

## 概説と倫理的推論

- 法律は最低基準、倫理はそれ以上を求める
- 四つの原則
  - 自律尊重は自己決定を支える
  - 善行は福祉を促進する
  - 無危害は不釣り合いな害を避ける
  - 正義は公平な分配と平等な尊重
- 原則は衝突し、機械的に答えを生まない
- 事実、選択肢、価値観、能力、法律を明確化
- 最も制限の少ない有効な選択肢を記録
- 倫理コンサルテーションは支援で、決定に代わらない

## 意思決定能力

- 決定ごと、時点ごとに異なる
- 理解、保持、利用・比較衡量、伝達
- 診断や賢明でない選択で失われない
- まず能力を支える
  - 疼痛、せん妄、低酸素、離脱、恐怖を治療
  - 通訳、支援者、最適な時期
- 能力がない場合
  - 事前指示と任命された意思決定者
  - 代理判断は患者なら何を選ぶか
  - 最善利益は福祉と希望を統合
  - 家族は自動的に法的決定者ではない

## 小児と青年

- 親の権限は子どもの福祉で制限
- 発達に応じて賛意を求める
- 一部の青年は独立して同意できる
- 秘密を守る診療は開示を促す
  - 重大リスクとセーフガーディングの限界を説明
- 有害な親の拒否は強化対応、放棄しない

## 誤り、率直説明義務、過失

- 安定化、証拠保全、事実の開示
- 謝罪と分析は両立する
- 公正な文化は誤り、近道、無謀を区別
- 過失は義務、違反、因果関係、損害
  - 転帰不良だけでは過失でない
- 移行なき診療終了は診療放棄
- 良心的拒否の限界

## 研究倫理

- 妥当性、利益・リスク均衡、公平、審査
- 臨床的均衡は専門家の真の不確実性
- 同意では研究と治療を区別
- プラセボで重大な回避可能な害を与えない
- ゲノミクス、人工知能、バイオバンクの統治

## インフォームド・コンセント

- 自発的、情報に基づく、能力あり、具体的
- 署名ではなく過程
- 目的、リスク、代替法、無治療を説明
- 重要なリスク
  - 合理的な人が重要とみなすもの
  - その患者が特に重視するもの
- 平易な言葉、通訳、理解の確認
- 同意はいつでも撤回できる
- 緊急の必要性
  - 能力なし、有効な拒否なし、遅延で害
  - 都合のよい非緊急治療は認めない
- 治療上の特権は極めて限定的

## 守秘義務とプライバシー

- 信頼と率直な開示を可能にする
- 診療に必要な情報のみ収集・閲覧
- まれな詳細で匿名化は破れる
- 同意なしの開示
  - 重大な害、保護、法定義務
  - 最小限、患者へ伝え、記録する
- 死後も続く
- 遺伝情報は家族へ影響する
  - 患者自身の共有と専門カウンセリング

## 記録と専門職としての境界

- 記録はケアの道具かつ法的文書
- 観察、申し立て、推論を区別
- 日付付き追跡可能な訂正
  - 不正確な文章のコピーは害を拡大
- 境界は搾取を防ぐ
  - 力関係は診療終了後も続く
- 同席者は同意の代わりにならない

## セーフガーディングと暴力

- 虐待、ネグレクト、搾取、強制的支配
- 警告徴候は単独で虐待を証明しない
- 訓練された通訳を用い私的に話す
- 加害者と対決せず、秘密を約束しない
- 患者の言葉と外傷を記録
- 親密なパートナーからの暴力
  - 別居・妊娠中に悪化しやすい
  - 絞頸は所見乏しく遅発性損傷
  - 計画なしの突然の介入は危険

## 資源配分と公衆衛生倫理

- 透明で一貫した臨床基準
  - 社会的価値、富、固定観念は用いない
- 障害は生命価値の低さではない
- 制限措置には必要性と比例性が必要
  - 支援のない強制は信頼を損なう